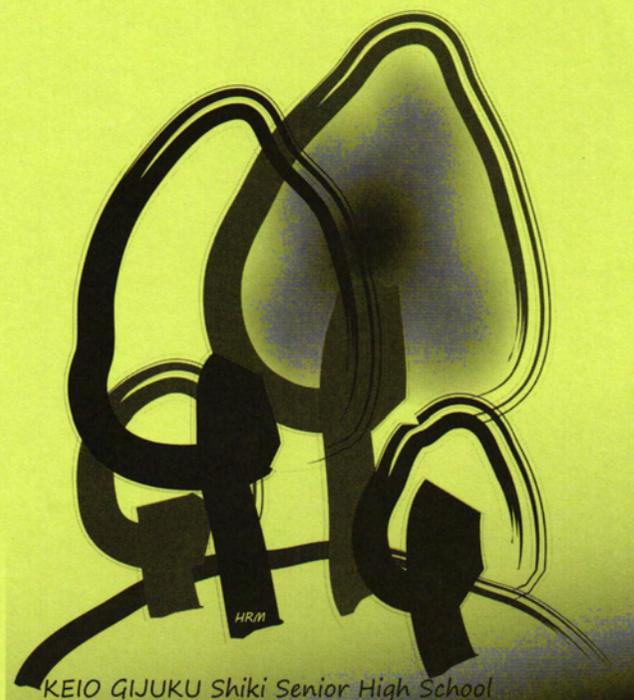


慶應義塾志木高等学校

樹木がいにど



第2分冊

このガイドブックの使い方

このガイドブックは、校内のモデルコースを散策しながら樹木の特徴を知っていくことを目的としています。

ガイドブックにしるされた特徴と実際の樹木とのギャップを楽しみながら、理解していくことが「予測できない」自然を知る上で大切なことです。

ここにしるされた樹木は、校内に180種以上ある樹木の一部にすぎませんが、公園の植栽や街路樹としてもよく見かけるものです。識別ができるようになったら、折に触れて家族や友人にも教えてあげましょう。特に、大人には意外と受けがよいものです。

なお、ページレイアウトは、一般的な図鑑のような科ごとの配列にせず順路に沿って最初に登場する順としました。実際の見やすさを優先した結果ですが、巻末に樹木リストを添付しました。

...1/Mar/2013

【Model Course】



カイズカイブキ

Juniperus chinensis L. var. kaizuka Sieb.

FEATURE

【一般的な特徴】

正門から入り、左手に見える芝生の手前の植え込みがこの樹です。針葉樹に分類され、イブキ（ビャクシン）の園芸品種で鱗状葉りんじょうようとよばれる葉をつけます。ヒノキの仲間が扁平な鱗状葉であるのに対して、カイズカイブキの葉は円柱状で十字対生します。寒さには弱いですが排気ガスには強いため、本校では正門から硬式庭球場までの生け垣にこの樹を植栽しています。

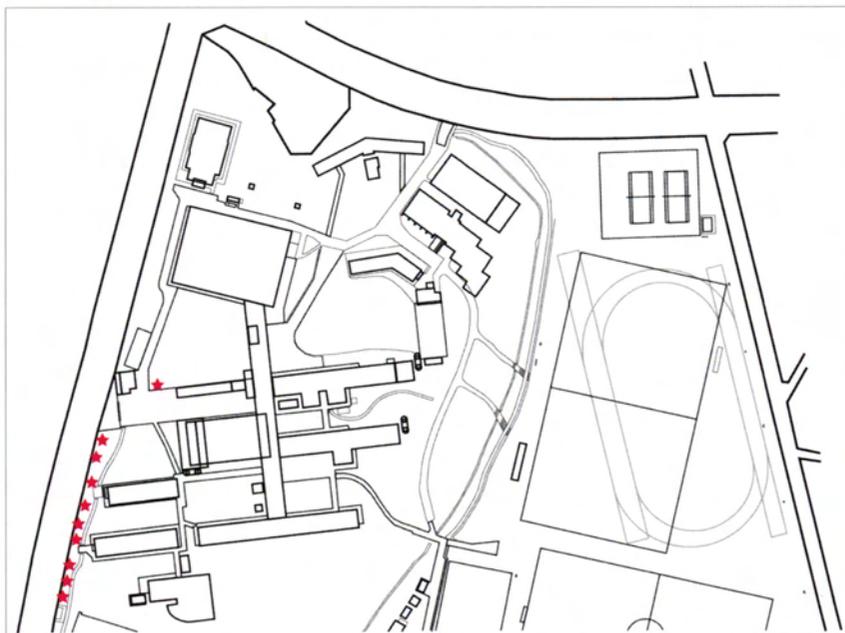
【花期】 4月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るができます



COLUMN

『先祖返り』

カイズカイブキは、強く刈り込んだり、樹そのものに勢いがなくなると、スギのような針状葉が出る場合があります。これは、カイズカイブキの進化上の祖先種がもっていた特徴があらわれたものと考えられており、一般にこのような現象を『先祖返り』と呼びます。

イヌツゲ

Ilex crenata Thunb.

FEATURE

【一般的な特徴】

モチノキ科の低木で葉が密に付き、剪定してもよく萌芽するので各地で庭木・公園樹・生垣などに植栽されています。「ツゲ」と呼ばれることもありますが、「ツゲ」とは別の仲間です。葉が1～3cmと小さく、互生で鋸歯きよしがあるという特徴から「ツゲ」と見分けることができます。雌雄異株で、長さ2mmほどの花弁が4枚並び小さな花を葉腋につけます。雌花は受精すると秋に黒く熟した果実をつけます。

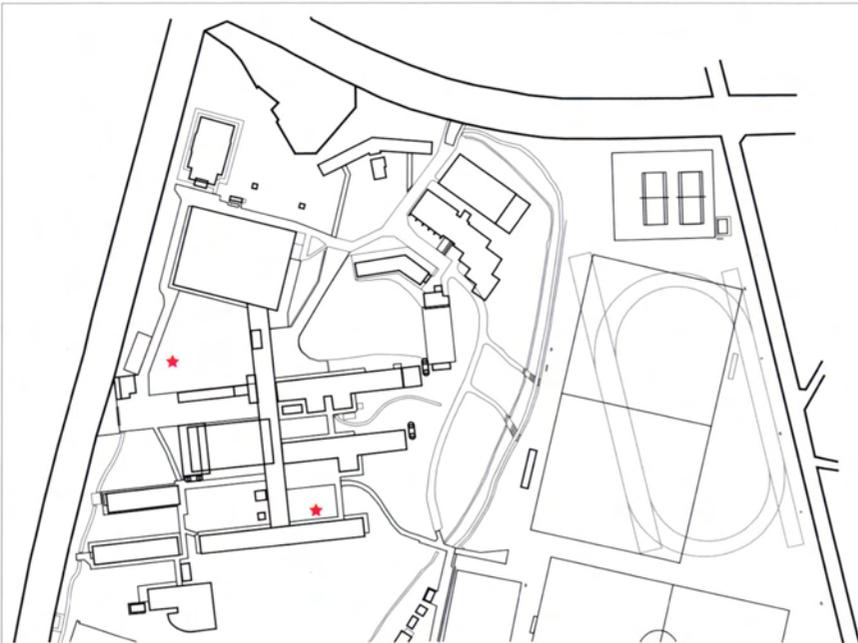
【花期】6～7月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『本物のツゲ』

イヌツゲに対し、「ツゲ」はツゲ科に属し、対生で全縁、葉先にくぼみが見られます。材は固く、緻密なので、くしや印鑑、そろばん珠、数珠、将棋の駒などに用いられます。一方、イヌツゲは材質が劣るため、役に立たない・ニセの意である「イヌ」が名についています。

マルバハギ

Lespedeza cyrtobotrya Miq.

FEATURE

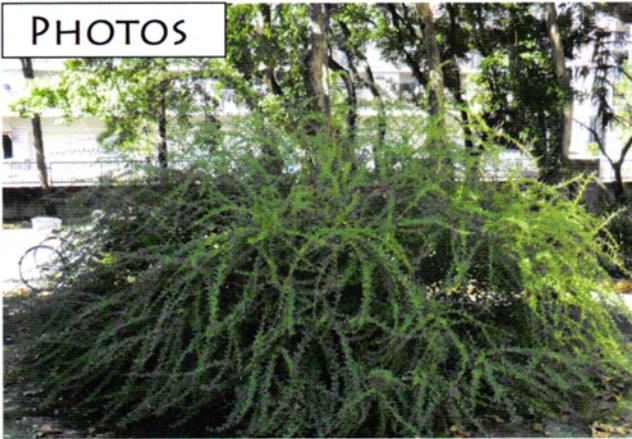
【一般的な特徴】

マメ科の落葉低木で樹高1～3mほどになります。さんしゅつぷくよう三出複葉で、「丸葉萩」の名のとおり全縁で丸みのある葉が互生しています。また、明るい場所を好み、8～10月にかけて紅紫色の花が咲きます。花軸が伸びず、葉の根元に密集して咲いているので、近縁のキハギやヤマハギとは異なった印象を与えます。正門を入り左手芝生手前、大変日当たりのよい場所に植栽されています。

【花期】 8～10月

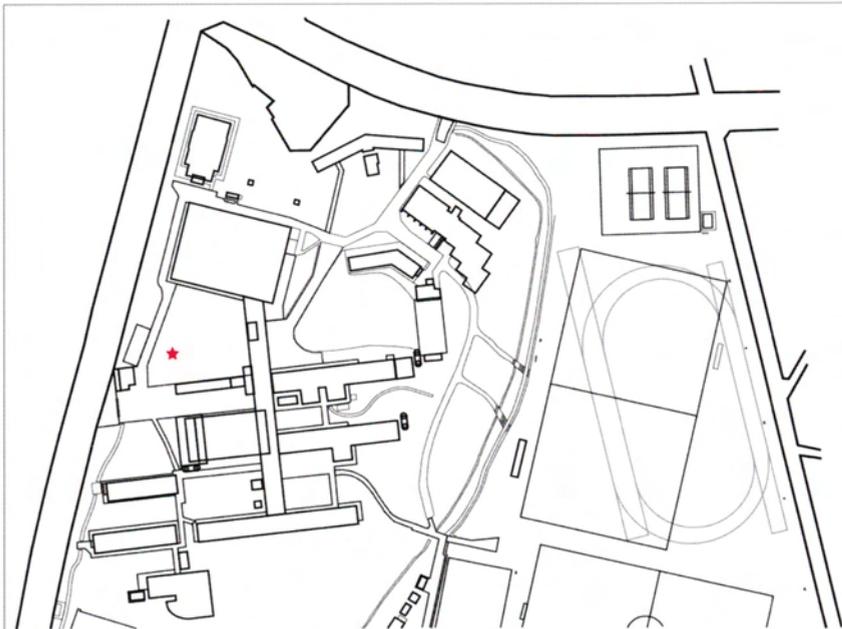
【果期】 10～11月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『萩』

「万葉集（7～8世紀、編纂）」の和歌の中で最もよく詠まれている花として知られているなど、古くから日本人に親しまれている植物です。オミナエシ・オバナ（ススキ）・キキョウ・ナデシコ・フジバカマ・クズ・ハギ、「秋の七草」の一つでもあります。

トウカエデ

Acer buergerianum Miq.

FEATURE

【一般的な特徴】

名は「唐楓」、中国を示す「唐」が名にあるように、中国原産の樹です。樹高が10～15m程になる高木で、鮮やかに紅葉し丈夫なので、都心では昔から街路樹として多くみられます。葉は全縁で中ほどまで3つに切れ込み、3本の葉脈が目立ちます。樹皮がタテにはがれるのも特徴の一つです。本校では正門から北方向の道沿いに十数本の木が並んでいます。

【花期】 4月

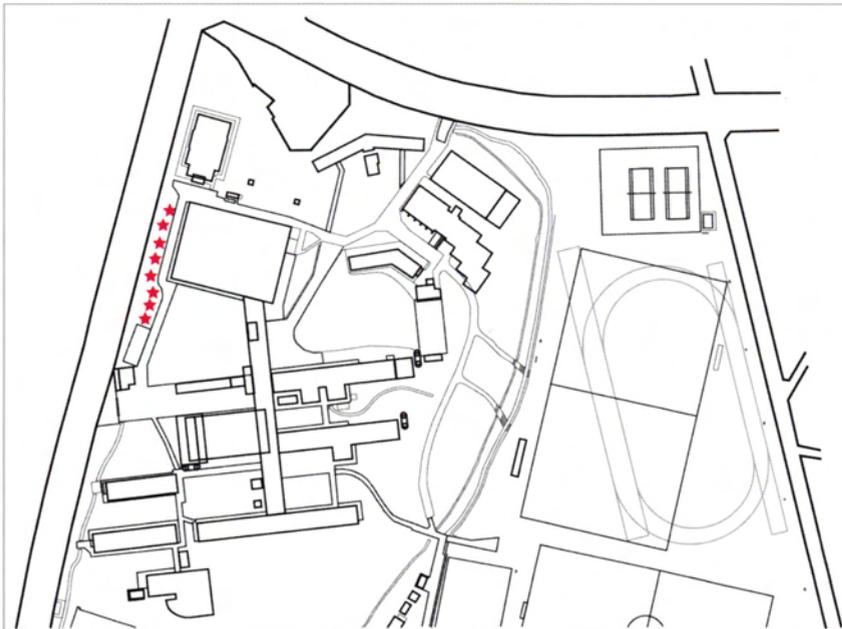
【果実】 6月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るができます



COLUMN

『翼つきの実』

4月の花期のあと6月に結実します。うす黄緑の果翼が大きく開き、風の抵抗を受けやすくします。落果時には、くるくると回転しながら滞空時間を稼いで落ちるため、より遠くに飛ぶことができます。親木と栄養や日光の取り合いにならない工夫です。

キンモクセイ

Osmanthus fragrans Lour. var. *aurantiacus* Makino

FEATURE

【一般的な特徴】

中国原産の常緑低木です。花には強い香りがあるため、開花期には近くを通るだけで存在に気づきます。強い香りのため、芳香剤の香りとしての印象が一般化しています。橙色の花をつけるキンモクセイに対し、白色の花をつける「ギンモクセイ」もあり、同じモクセイ科の仲間です。本校には、キンモクセイがあります。

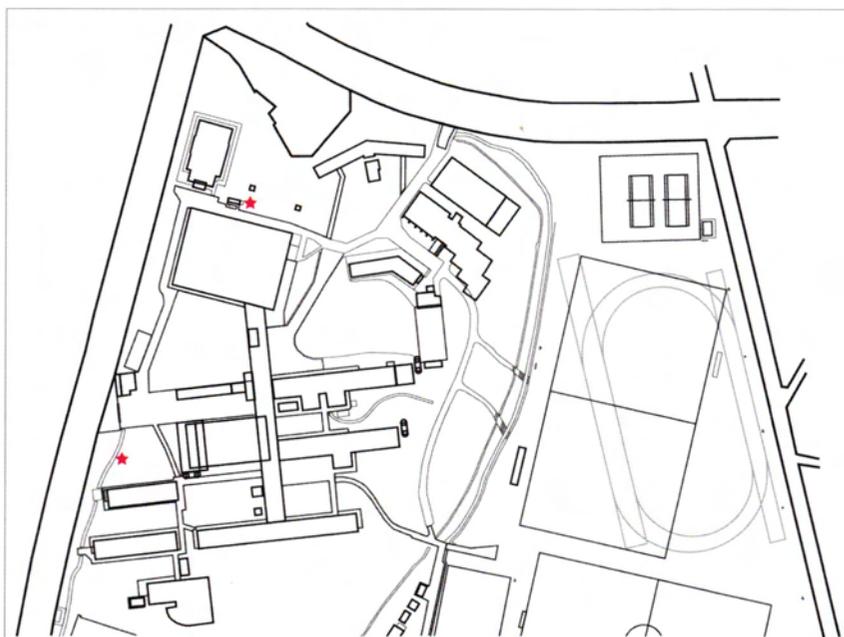
【花期】9～10月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るができます



COLUMN

『モクセイ科』

フジウツギ目の中にある一つの科で約600種からなります。キンモクセイのように花に強い芳香をもつものがある一方、オリーブのような食用果樹もあります。

アケビ

Akebia quinata (Tunb.) Decaisne

FEATURE

【一般的な特徴】

落葉性、つる性の樹木です。葉は全縁で5枚の小葉からなる掌状複葉で、先端が少しくほみ、一年生のつるに互生します。花は、淡紫色の数個の小さな雄花と紅紫色の大きめの雌花が総状につきます。雌花は、円柱形で粘性の3～6個の雌しべを持ち、そのうちの数個が果実になります。果実は紫色の楕円形で熟すと裂開し、白色の果肉の部分は甘く、食べられます。

【花期】4-5月

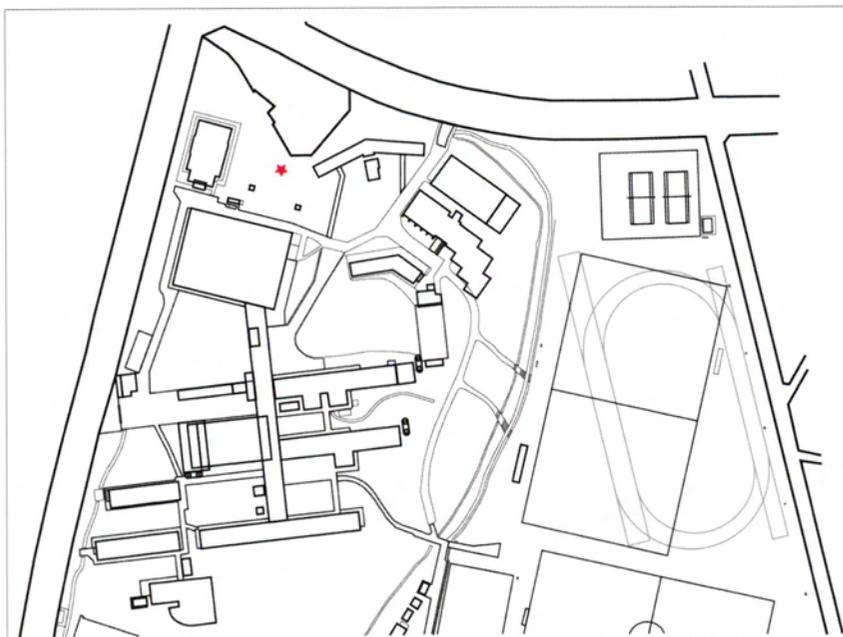
【果実】秋

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るができます



COLUMN

『アケビの蔓』

アケビの蔓は、無毛でしなやかなため、ヤマブドウやフジの蔓と同じように籠細工等に用いられます。工芸品の蔓細工には、小葉が三枚の「ミツバアケビ」の蔓が用いられます。近年では適した天然の蔓の採取が難しくなっているため、「アケビの籠」は貴重なものとなっています。

シロダモ

Neolitsea sericea (Bl.) Koidz

FEATURE

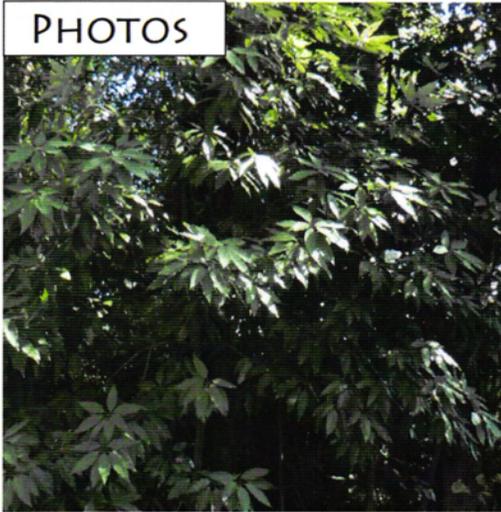
【一般的な特徴】

葉に大きな特徴があります。葉は細長い楕円形で枝先に車輪状に集まってつき、葉脈が葉のつけ根付近で3本にはっきりと分かれ長く伸びています（三行脈^{さんこうみやく}）。また、全縁で、裏面が灰白色です。花は10～11月に咲き、実は翌年の秋から冬に赤くなります。身近にごくふつうに生えている樹で、本校内にも多くありますが、知名度は低いようです。

【花期】10～11月

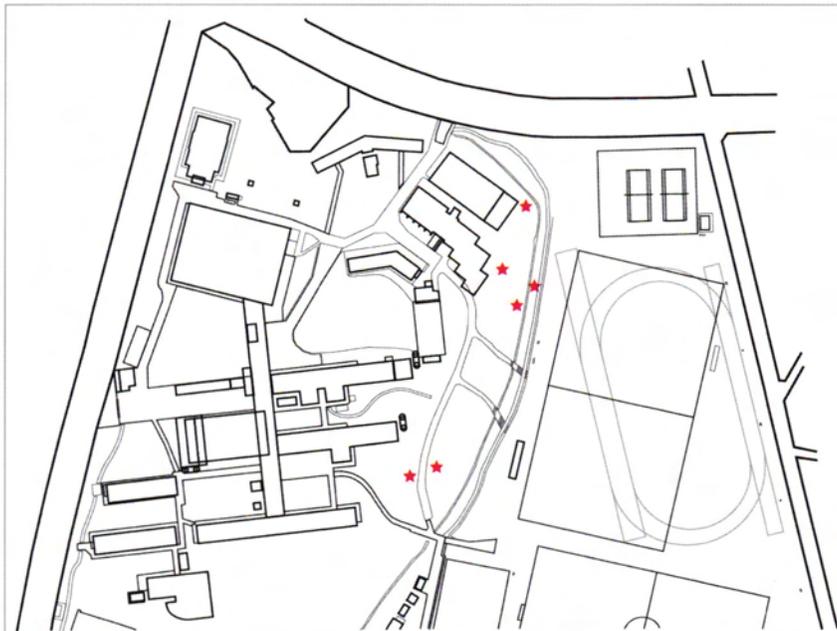
【果実】秋～冬

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るができます



COLUMN

^{さんこうみやく}
『三行脈』

葉脈の種類の一つです。クスノキ科のイヌガシ、クスノキ、ヤブニッケイの仲間などが三行脈を持ちます。クスノキは三行脈の分かれ目に「ダニ部屋」とよばれるふくらみがあり、ヤブニッケイはちぎるとシナモンに似た強い香りがします。

ソメイヨシノ

Prunus × yedoensis Matsumura

FEATURE

【一般的な特徴】

日本には数百種ものサクラがありますが、鑑賞用として全国に広く植栽され一般的に「サクラ」と呼ばれているのがソメイヨシノです。オオシマザクラとエドヒガンの雑種で、明治初期に東京の染井村（現、東京都豊島区）の植木屋が売り出したと言われていました。公園や街路樹に多く植えられていますが、種子ではなく接ぎ木などで増やすため、日本のソメイヨシノはほとんどがクローンであると言えます。葉より先に花が開くのが特徴です。

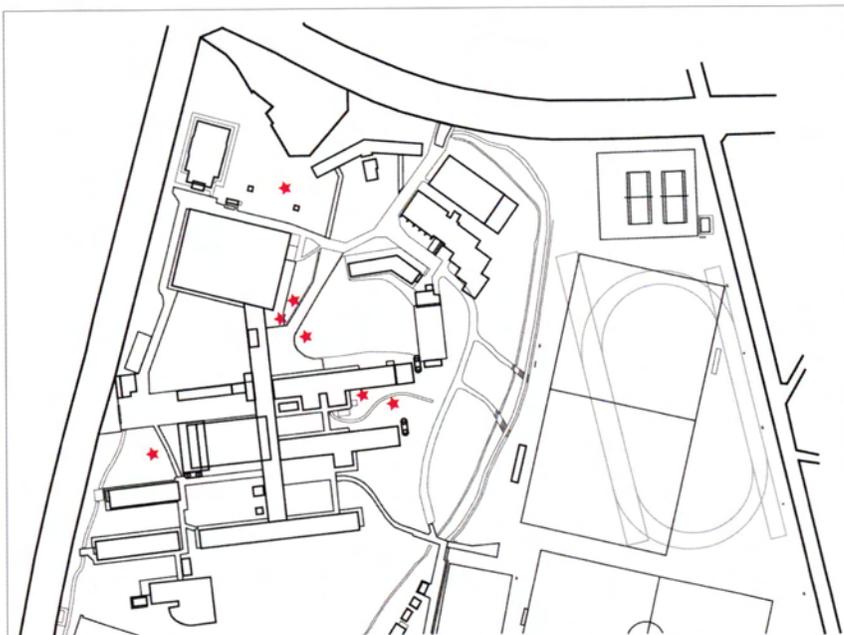
【花期】4月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『晩秋から冬にもサクラ』

本校には、数種のサクラがあります。10月末に開花する「ジュウガツザクラ」（通称「冬桜」）、3月下旬に開花する「カワツザクラ」に「カンヒザクラ」、ソメイヨシノとほぼ同時期に開花する「チョウショウインハタザクラ」です。4月下旬から5月上旬には「サトザクラ」と「イヌザクラ」が開花し、秋から春にかけてサクラが咲き続けます。

ユズリハ

Daphniphyllum macropodum Miq.

FEATURE

【一般的な特徴】

常緑樹で、光沢と厚みのある15～20cm程度の長さの葉をつけます。細長い楕円形で全縁の葉は、単葉で互生し枝先に集まってつき、樹形は丸くなります。また、葉裏は粉を吹いたように白みが強く、葉脈の網目が大きいのが特徴です。本校では、合宿所・トレーニングルームのある去来舎前に植栽されているほか、校内林床に幼樹を何本か見ることができます。

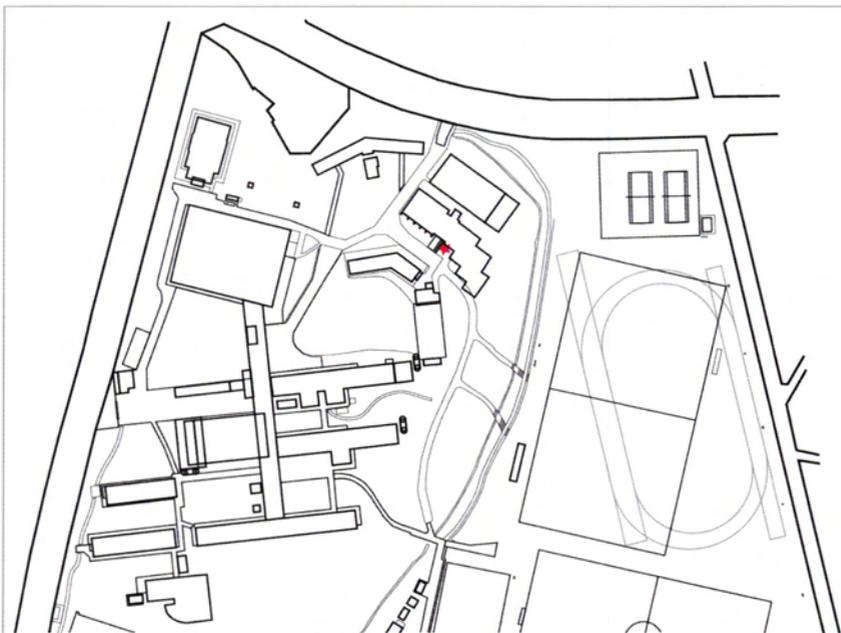
【花期】4-5月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『譲り葉』

ユズリハは、新芽が出ると古い葉が落ち、新芽に世代を「譲る」ように見えることからこの名がつけました。子孫繁栄を象徴する縁起のよい樹とされ、正月飾りに用いられます。

ケヤキ

Zelkova serrata (Thunb.) Makino

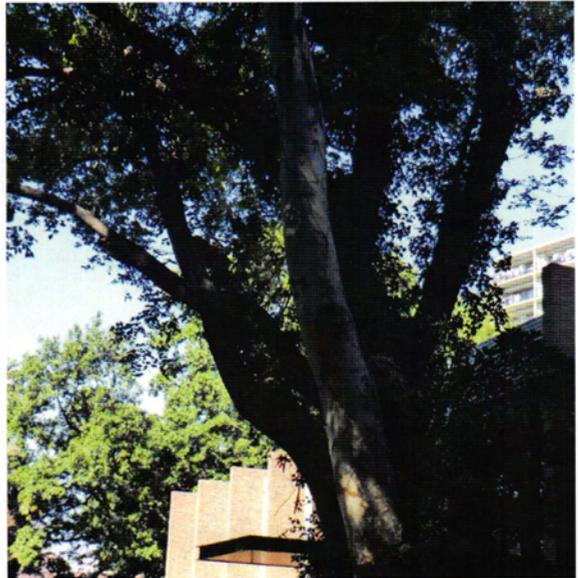
FEATURE

【一般的な特徴】

おうぎ形の樹形が美しい樹で樹高 20m 以上にもなり、街路樹としてよく植栽されています。また、関東平野では屋敷林などに大木が多くみられます。紅葉が鮮やかで赤や黄、橙から茶色へと変化します。木材も有用性が高く家具やお椀、社寺の建築などに用いられます。葉の表面がややざらつき、葉縁の鋸歯の先がカーブを描いているのが特徴的です。

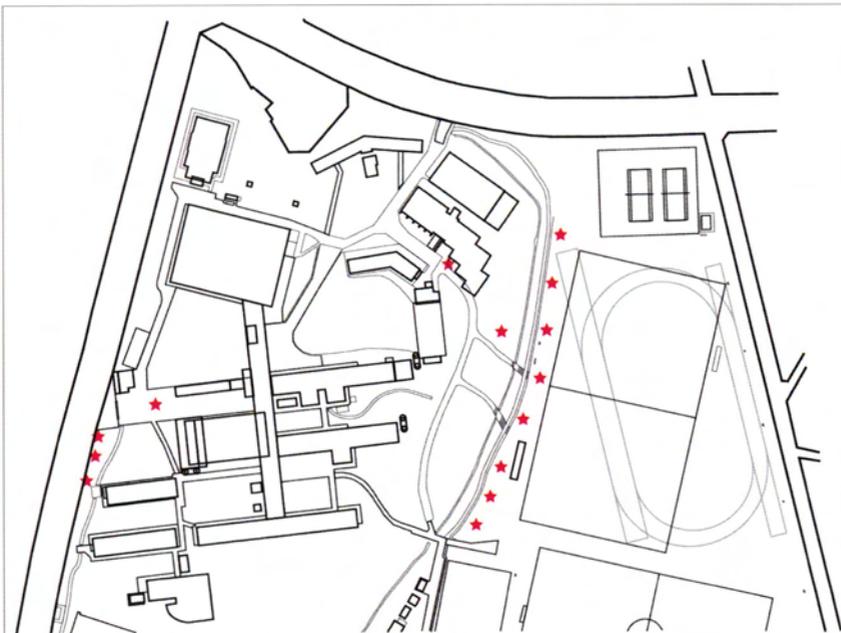
【花期】 4月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『櫟』

本校在校生の作品集の名は『櫟』です。樹木のケヤキが際立って広い用途を持つことから、同じように際立って素晴らしいものであるように…との思いから命名されました。

『櫟』は 1992 年創刊で、2012 年度で第 21 集を数えます。

イロハモミジ *Acer palmatum* Thunb.

FEATURE

【一般的な特徴】

モミジとしてよく知られている種です。「イロハカエデ」とも呼ばれ、裂片を「いろは…」と数えたことに由来します。オオモミジ、ヤマモミジに比べ葉は小さく、葉縁は5～7裂に分かれ、鋸歯が粗いのが特徴です。プロペラ状の果翼がほぼ水平状に開くのも特徴的です。

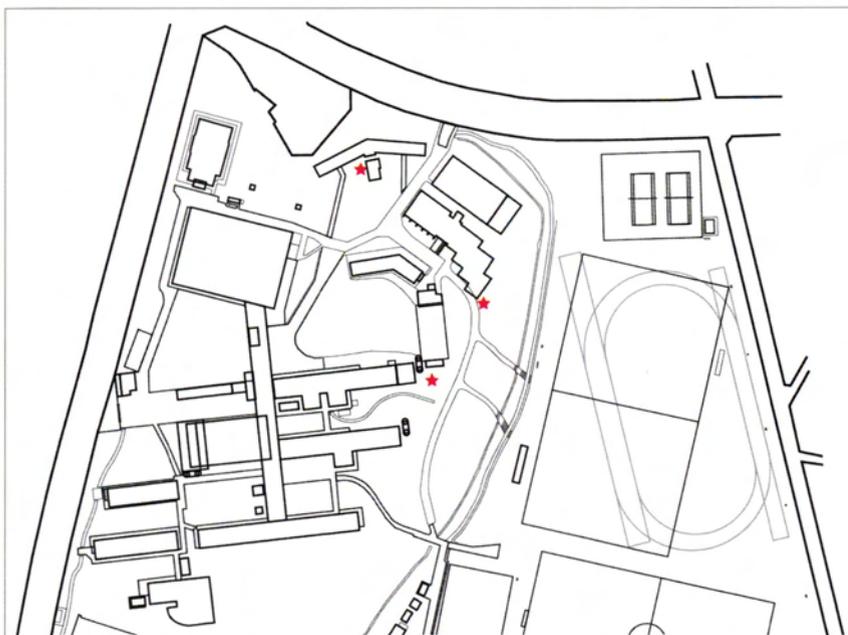
【花期】 4-5月

【果期】 7-9月

PHOTOS



VIEW POINT …ここで見るすることができます



COLUMN

『紅葉のしくみ』

イロハモミジは秋になると見事に紅葉します。これは葉柄の基部に離層ようへいが形成されることで、糖類などの養分の移動が止まり、葉に留まることが引き金になると考えられています。

コナラ

Quercus serrata Thunb. ex Murray

FEATURE

【一般的な特徴】

人里近い雑木林に多くみられる樹で本校内にも多くみられます。同じブナ科のミズナラと似ていますが、約1cm程度の葉柄ようへいがあるので、見分けることができます。堅果（どんぐり）は長い楕円形で約2cmほどですが、本校の実しんたんざいは通常の1.5倍ほどの大きさがあります。材はかつては薪炭材として用いられていましたが、現在はシイタケのほだ木に利用されています。樹液にはカブトムシなどが集まります。

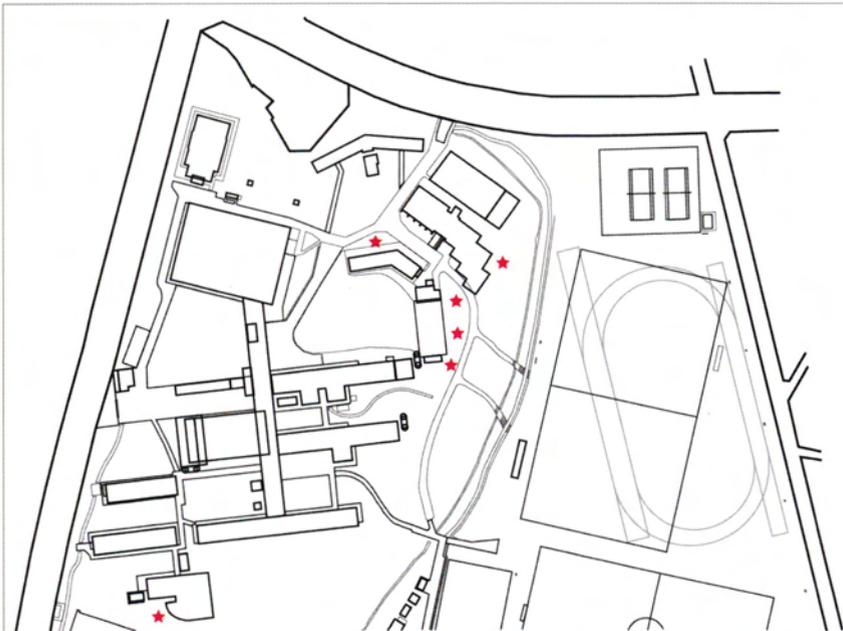
【花期】 4-5月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るができます



COLUMN

『どんぐり』

どんぐりは、殻が固く、卵形から楕円形をした木の実の総称です。根元の部分をお椀のような「殻斗かくと」に包まれています。形や殻斗の模様の違いでどんぐりを見分けることができます。本校ではコナラ
の他、クヌギ、シラカシ、マテバシイのどんぐりを見ることができます。

アオキ

Aucuba japonica Thunb.

FEATURE

【一般的な特徴】

日本特産の常緑低木です。アオキという名は、葉も枝も青い（緑色）ためと言われてい
ます（若い幹が緑色でのちに褐色になります）。葉の表面は濃緑色で光沢が強く、冬から春にかけ
2 cm程の赤い実がつきます。耐陰性が高く、暗いスギ・ヒノキ林内でも大きな葉に赤い実
がつくので容易に確認できます。本校では、グラウンド横の雑木林に多く自生しています。

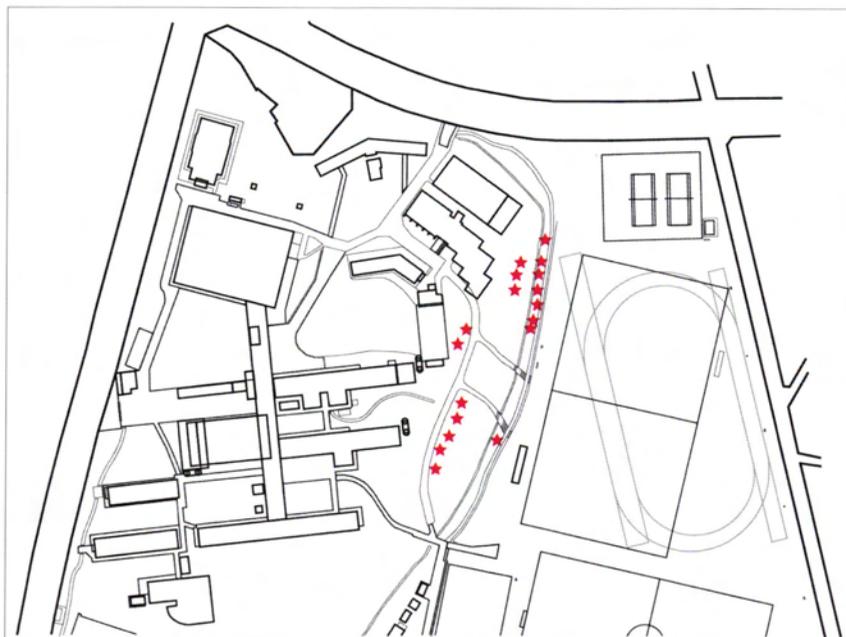
【花期】3-5月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『押し葉にしにくい理由』

アオキの葉はアウク
ピン（学名に注目）と
呼ばれる成分が含まれ
ています。葉を切った
り押し葉にすると、こ
のアウクピンが葉を黒
く変色させてしまいま
す。アオキの葉が押し
葉にうまくできない理
由はこのためです。

ムクノキ

Aphananthe aspera (Thunb.) Planch.

FEATURE

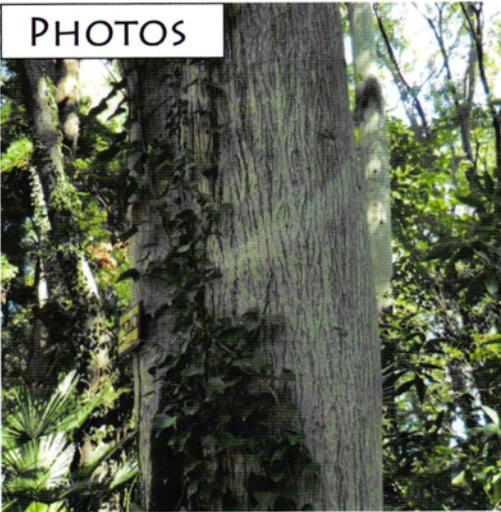
【一般的な特徴】

ケヤキと同じニレ科の仲間です。樹形は似ていますが、葉脈が基部で3本に分かれ、さらに外側に分岐しているのが特徴です。また、葉の表面がかなりざらつくため、研磨用として利用されていました。材としても強靱なため天秤棒に用いられ、建築・器具材としても使われています。黒紫色の実の外果皮は甘く、校内でもムクドリやハトがついばむ姿を目にします。

【花期】 4-5月

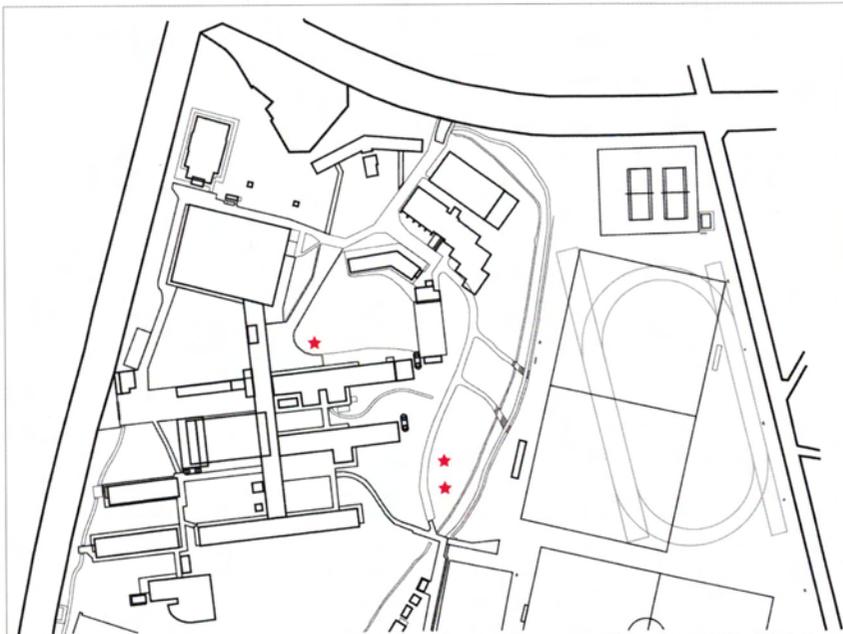
【果期】 10月頃

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『漆器磨き』

葉が研磨用に使われることがあるのは、葉の表面（表・裏とも）に短い剛毛を生じるためです。現在のようなサンドペーパーがない時代、目の細かいムクノキの葉は、漆器やベッコウの表面を磨くのに欠かせないものだったので、

イチョウ

Ginkgo biloba L.

FEATURE

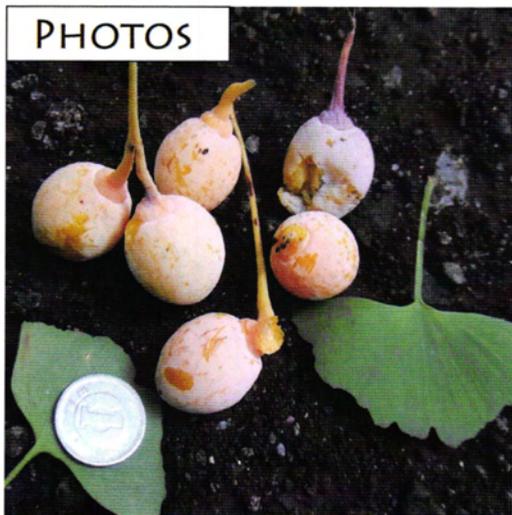
【一般的な特徴】

秋に黄葉の美しい落葉高木で、葉先に1～数か所の切れ込みのあるおうぎ形の葉が特徴的です。約2億年前の中生代の地層からもイチョウは発見されており、「生きている化石（＝遺存種）」と呼ばれています。時代の古いものほど葉の切れ込みが深くなる傾向がありますが、本校のイチョウも含め、現在のイチョウは切れ込みが浅いか、全くないものもあります。

【花期】4-5月

【果期】11月頃

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『精子』

ふつうの樹木が花粉で受精するのに対し、裸子植物のソテツとイチョウだけは花粉管内に運動能力のある「精子」を作ります。イチョウが精子を作ることを発見したのは、日本人の平瀬作五郎です。雌雄異株のイチョウですが、本校に数本あるイチョウのうち、一本だけ、雌株であると判明しました。

メタセコイア

Metasequoia glyptostroboides Hu et Cheng.

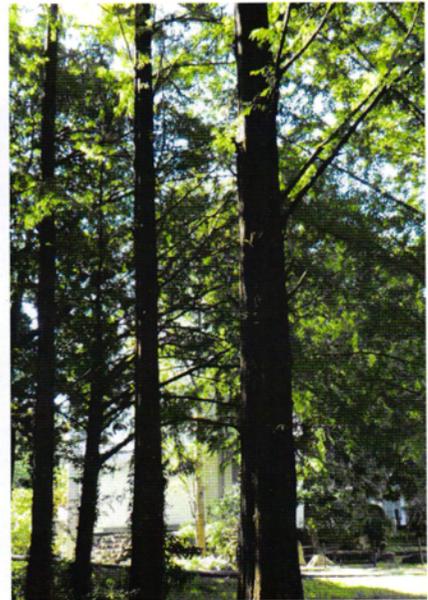
FEATURE

【一般的な特徴】

樹高 30mにもなる中国原産の落葉高木です。葉は色が明るく柔らかで、秋にはレンガ色に紅葉します。メタセコイアは枝・葉のどちらも対生なので、互生で葉が短い同じスギ科の北アメリカ原産のラクウショウと見分けることができます。本校では、教室棟からグラウンドへ続く遊歩道の左手にイチヨウと並んでメタセコイアがあります。また、メタセコイアの林の中に一本だけ、ラクウショウが紛れています。

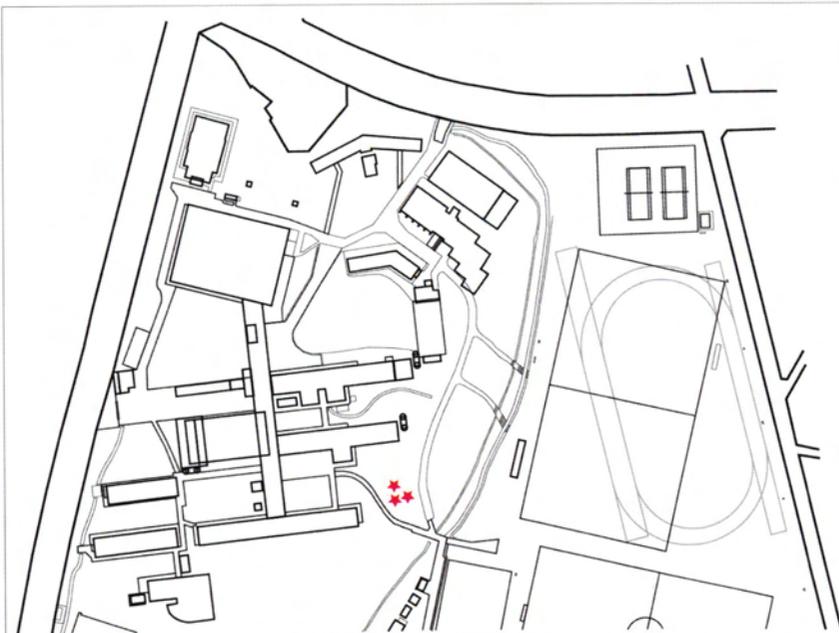
【花期】 2-3月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『生きた化石』

メタセコイアもイチヨウと同じく生きた化石と呼ばれます。遺存種 (relic) とも言います。新生代第三紀に絶滅したと思われていたものが、1945年に中国揚子江の奥地で発見され、当時話題になりました。発見後、苗木は増やされ、今では日本の各地でも多く見られるようになりました。

エノキ

Celtis sinensis Pers. var. japonica (Planch.) Nakai

FEATURE

【一般的な特徴】

秋になると黄葉が美しい落葉高木です。4月には新葉とともに白い花をつけますが、花は小さくあまり目立ちません。また、秋には球形の赤い実をつけます。葉は、同じニレ科のケヤキやムクノキと似ていますが、葉脈が鋸歯の先端まで達せず、葉の先半分に鋸歯が見られるのがエノキです。また、葉は国蝶オオムラサキの幼虫等の餌となります。

【花期】 4-5月

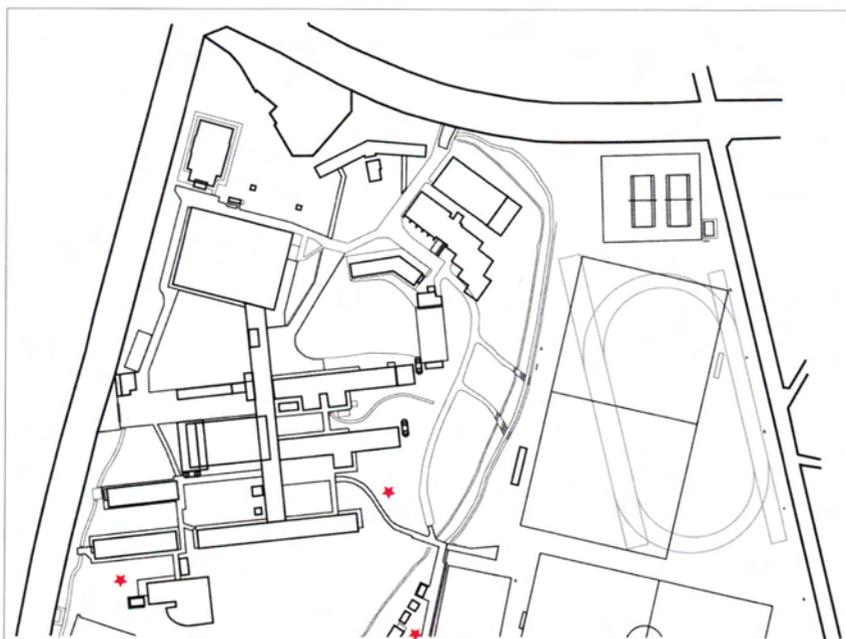
【果期】 9月頃

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『アカボシゴマダラ』

エノキは多くの昆虫の食樹となっていますが、近年、南方のチョウである「アカボシゴマダラ」が校内でエノキを食樹として繁殖していることが確認されました。大陸からの要注意外来種で、確実にその棲息範囲を広げているようです。

サザンカ

Camellia sasanqua Thunb.

FEATURE

【一般的な特徴】

常緑で耐寒性があり、花の少ない季節の晩秋から冬にかけて一斉に開花します。各地で庭木や生垣として植栽してあり、よく見かけます。同じツバキ科ツバキ属のヤブツバキと似ていますが、サザンカはヤブツバキに比べ葉はやや小さく、花びらが一枚ずつ散ります。また、八重咲きなどの園芸品種も多くあり、花色も多彩です。本校では、サザンカ・ヤブツバキ共に植栽されています。

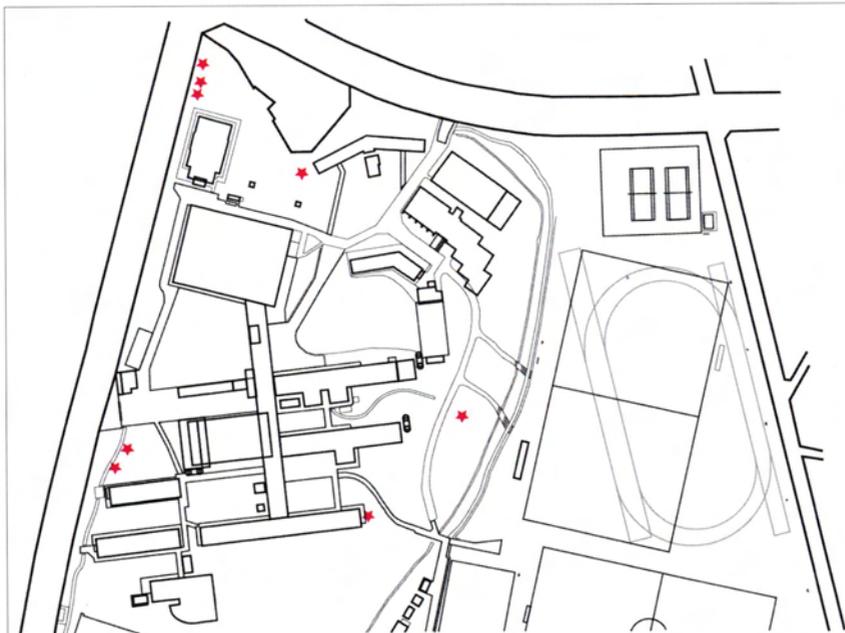
【花期】 10-12月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『本当は熱帯系』

童謡の「たきび」の中にも登場するせいか、北のものと思われがちですが、本来、サザンカの属するツバキ科の植物は熱帯から亜熱帯にかけて自生しています。

ナンテン

Nandina domestica Thunb.

FEATURE

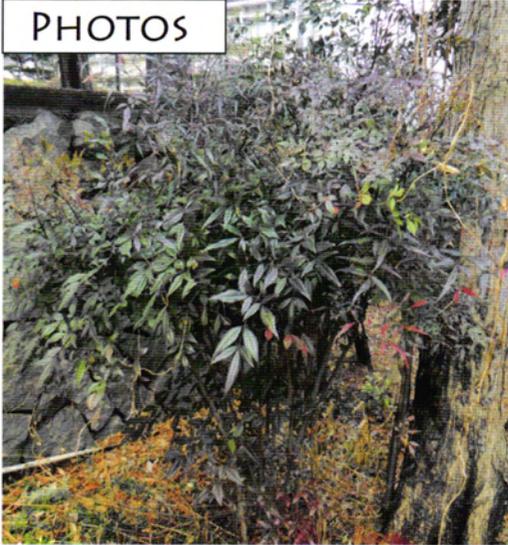
【一般的な特徴】

5月から6月に白い花が咲き、秋から冬にかけて赤い鮮やかな小さな果実を多数つけます。果実が白色の「シロミナンテン」もあります。葉は茎の先端に集まり、三回三出複葉という珍しい葉の形をしています。常緑樹ですが、まれに冬に葉が赤く紅葉することもあります。

【花期】5-6月

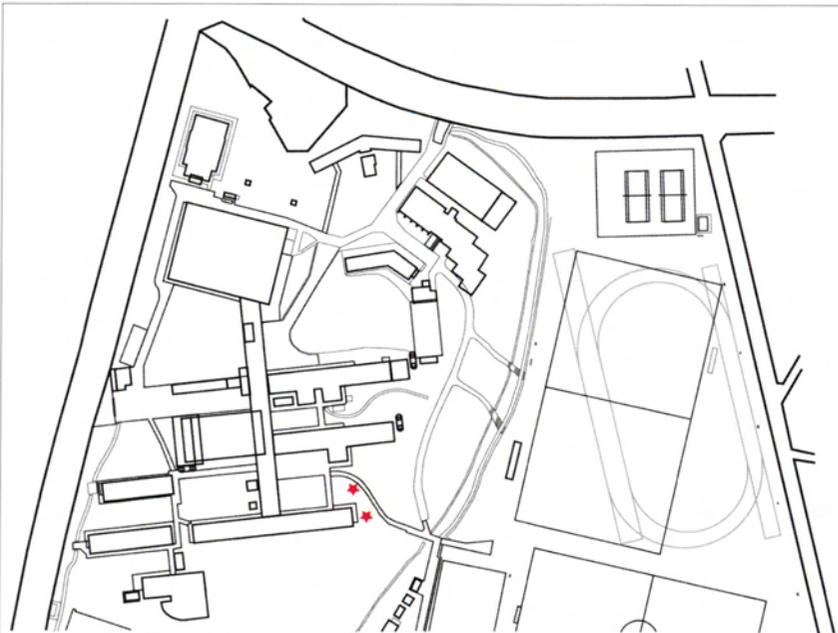
【果期】晩秋-冬

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『縁起物』

ナンテン＝「難を転ずる」とかけ、縁起のよいものとして昔から庭木や庭園、神社などに植栽されています。また、正月飾りとして用いられたり、食あたり除けのおまじないとして、食べ物の上に葉をのせて進物とする風習もあります。また、果実は咳止めなどの薬用としても用いられます。

FEATURE

【一般的な特徴】

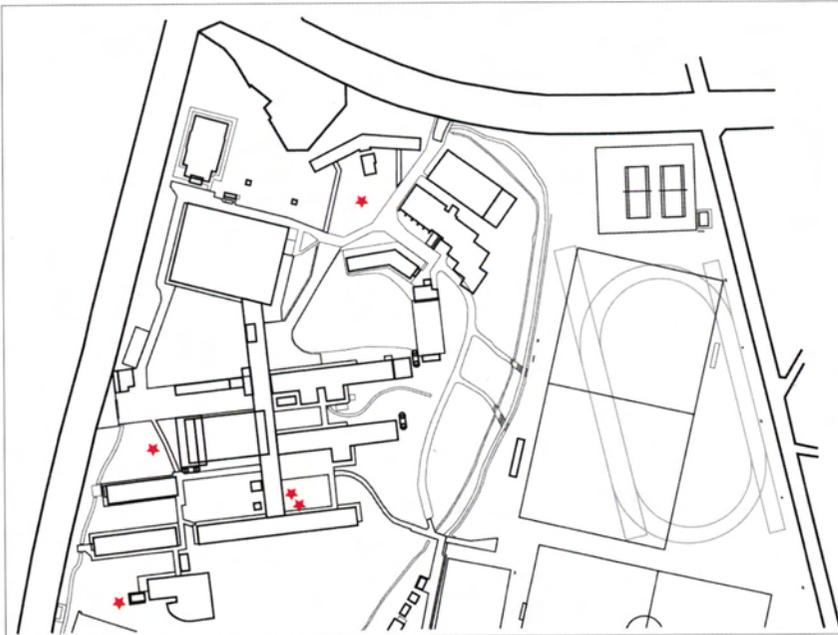
肉厚で光沢が強く、葉縁に鋭鋸歯がある黄緑色の大きな葉が特徴的です。一般的に花と呼ばれる4枚前後の花びら状のものは萼片で、特殊化した生殖能力のない花で「装飾花」といいます。この装飾花が“額”のように生殖能力のある両性花の周りにつく「ガクアジサイ」は日本固有種で、ガクアジサイをもとに品種改良が行われ、多くの園芸品種のアジサイが作出されています。

【花期】6-7月



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『七変化』

アジサイの花色は、土壌の酸性度により変化すると言われていますが、実際にはアルミニウムイオン濃度に応じて変わるようです。

また、咲き始めのころは黄緑色で、次第に花の色がでてきます。最後は茶色くなり、花は茎についたまま散らずに終わります。

ドイツウヒ

Picea abies Karst.

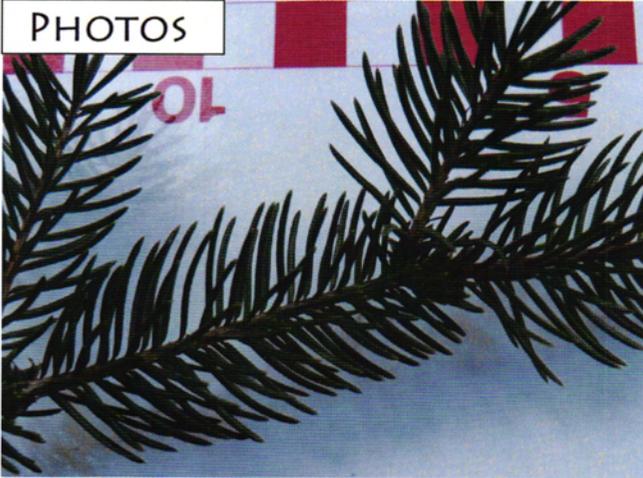
FEATURE

【一般的な特徴】

樹高 30～40mのヨーロッパ原産の常緑高木です。本校には、ホームルーム棟と文化棟の間にあります。枝は赤茶色が強く、葉は針形で互生し、主軸に対して上向きについています。球果は長楕円状の円筒形で長さ 15～20 cm、径 3～4 cm ほどになり、とても大きいのが特徴です。

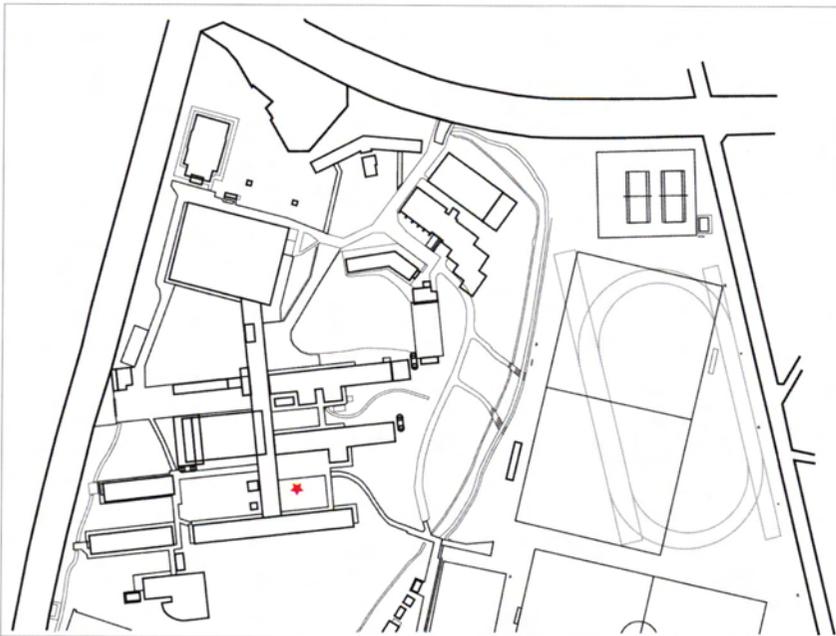
【花期】 5月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るすることができます



COLUMN

『世界最高齢』

現在、確認されている樹木の中で、最高齢を誇るのが、2008年にスウェーデンで発見されたドイツウヒ（オウシュウトウヒ）です。樹齢は約9,950年と見られています。

イヌザクラ

Prunus buergeriana Miq.

FEATURE

【一般的な特徴】

バラ科の植物で同科のソメイヨシノなどのサクラ類と近い仲間です。花の付き方に特徴があり、小さな白い花をブラシ状につけるので、別名シロザクラとも言われます。同科のウワミズザクラとよく似ていますが、イヌザクラは前年枝の下方に花をつけるため、花の下には葉がつきません。葉は細長く葉柄が少し長めです。山地に生え、植栽されることは稀です。

【花期】 5月

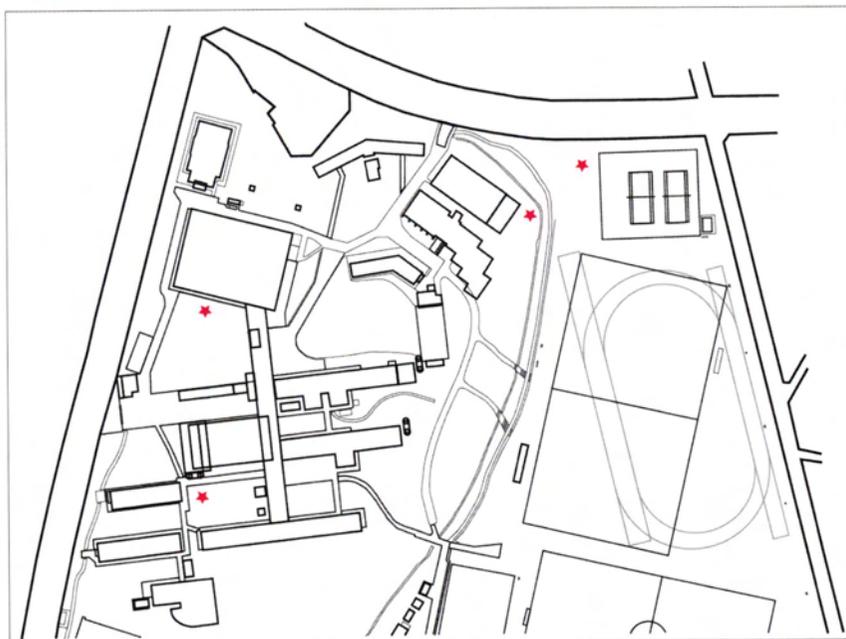
【果期】 6月

PHOTOS



VIEW POINT

…ここで見るができます



COLUMN

『総状花序』

イヌザクラは、サクラの中でも総状花序と呼ばれる独特な花のつけ方をするため、一見サクラにはみえませんが、中央の花軸からサクラらしい5弁の小さく白い花をたくさん咲かせるのです。

INDEX

イチョウ科	イチョウ	[17]
マツ科	アカマツ	[9]
	ドイツトウヒ	[23]
スギ科	メタセコイア	[18]
ヒノキ科	カイズカイブキ	[1]
	ヒノキ	[8]
ブナ科	コナラ	[14]
ニレ科	エノキ	[19]
	ムクノキ	[16]
	ケヤキ	[12]
クスノキ科	シロダモ	[7]
メギ科	ナンテン	[21]
ツバキ科	サザンカ	[20]
ユキノシタ科	アジサイ	[22]
バラ科	イヌザクラ	[24]
	ソメイヨシノ	[10]
マメ科	マルバハギ	[3]
ユズリハ科	ユズリハ	[11]
アケビ科	アケビ	[6]
カエデ科	トウカエデ	[4]
	イロハモミジ	[13]
ツゲ科	イヌツゲ	[2]
ミズキ科	アオキ	[15]
モクセイ科	キンモクセイ	[5]

ページレイアウトは、一般的な図鑑のような科ごとの配列にせずに順路に沿って最初に登場する順となります。インデックスの[]の数字は、該当樹木の掲載頁を表しますので、検索に利用してください。

樹木がいど 第2分冊

2013年3月1日 発行

発行 慶応義塾志木高等学校
編集 慶応志木環境調査プロジェクト
〒353-0004
志木市本町4-14-1
☎048-471-1361〔代表〕

制作 協永堂印刷株式会社
〒351-0024
朝霞市泉水2-8-21
☎048-462-1131
